

2023～ <b>医療福祉研究Ⅱ</b> (地域連携・多職種連携)	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	中村 令子	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

### ■授業のテーマ

医療・福祉・保健における職種間の連携・協働を推進するためのスキルを身につけ、実践力を養うために、自身のこれまでの他職種との連携協働を評価することで、医療・福祉・保健におけるそれぞれの専門分野の知識や技術を尊重しながら、関係職種間が連携および協働して、地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献する新たな実践を創造できる専門職となるために必要な知識、技術、態度を検討する。

### ■授業の目的

1. 専門職間の連携・協働が求められている背景を理解する。
2. 連携・協働のための戦略や理論を理解する。
3. 脳血管障害後遺症者の家庭復帰までの多職種連携の実際を理解する。
4. 専門職間の連携・協働に価値をおき、他職種の意見を尊重する態度を修得する。
5. 職種間、組織間の協働実践の改善策を考察する。

### ■授業の到達目標

1. 多職種連携の意義を述べることができる。
2. 連携・協働のために備えるべき能力を述べることができる。
3. 自身の専門領域で関わる他の専門職の役割を述べるができる。
4. 当事者および多職種連携の視点から自身の協働実践の改善策を述べるができる。

### ■授業の概要

少子高齢化、医療費・介護保険費の負担増加といった社会構造的な問題、疾病や障害の重症化や生活課題の重複といった対象者の問題、更に個人の健康価値観の多様化もあり、多職種の連携・協働を必要とする事例が増加している。総論として、多職種連携が求められるようになった背景と多職種連携に必要なコミュニケーションやファシリテーションの技術を理解する。各論として、脳血管障害患者の医療・福祉領域での多職種連携や各自の専門領域の多職種連携に関わる研究の分析から、当事者および多職種・多機関の視点で実践を振り返る。それにより、専門分野の知見を尊重しながら、関係職種間の連携および協働により地域社会の人々の保健・医療・福祉に貢献する新たな実践を創造できる専門職となるための知識、技術、態度を修得する。

### ■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	総論① 多職種連携が求められる背景	保健・医療・福祉施策 多職種連携の必要性	保健・医療・福祉施策で多職種連携が求められるようになった背景を理解し、各自の専門領域での多職種連携はどのように行われおり、何故、それが必要とされるのかを考える。
2	総論② 多職種連携とは	職種理解(他職種と多職種) コミュニケーション チーム医療と多職種連携 連携・協働のための情報共有	多職種連携の目的、意義、方法を理解する。各自の専門領域の情報収集の枠組みを他職種の人に説明できるようにし、異なる職種間の情報共有の必要性と方法を理解する。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
3	協働する力① 場のデザイン・関係調整のスキル	ファシリテーション チームビルディング 協働型チーム コミュニケーション技術	必読図書の序章・第1章・第2章を読んで、自身の実践を振り返る。
4	協働する力② 構造化のスキル・合意形成のスキル	問題の原因分析 合意形成	必読図書の第3章、第4章を読んで、自身の実践を振り返る。
5	協働する力③ ファシリテーションの実践	ケーススタディ	必読図書の第5章を読んで、自身の実践を振り返る。
6	多職種連携の実際① 脳血管障害患者の急性期・回復期治療	脳血管障害 リハビリテーション	急性期から回復期の脳血管障害の治療・リハビリテーションに関わる組織や職種の連携・協働を理解し、自身の専門領域での連携・協働への応用・活用を検討する。
7	多職種連携の実際② 脳血管障害後遺症者の在宅療養	脳血管障害 訪問看護	脳血管障害後遺症者の在宅療養に関わる組織や職種の連携・協働を理解し、自身の専門領域での連携・協働への応用・活用を検討する。
8	多職種連携の実際③ 自身の専門領域で関わる職種の理解	自身の専門領域に関わる多職種	自身の専門領域に関わる職種の役割と機能を理解し、連携・協働の改善策を検討する。
9	多職種連携研究① 連携・協働実践の振り返りに向けて	これまでの学びを自身の実践に生かすための検討	発表に向けて、これまでの学びを整理し、自身の論点を明確化する。
10	多職種連携研究② 各自の専門領域で行われている研究	多職種連携研究	レポート課題1と発表に向けて、各自の専門領域での多職種連携に関する研究を調べる。
11	多職種連携研究③ 各自の実践の紹介	実践発表	レポート課題1と発表に向けて、各自の専門領域の実践を紹介する。
12	多職種連携研究④ 各自の実践を改善するための対策	実践発表	レポート課題1と発表に向けて、本授業の学びから、各自の実践を改善するための対策を検討する。
13	多職種連携研究⑤ プレゼンテーション	実践発表	①各自の専門領域の研究の動向、②各自の専門領域での実践、③各自の実践を改善するための対策を発表する。
14	多職種連携研究⑥ 他の発表の検討	他職種の理解	レポート課題2に向けて、職種や課題による違いや共通すること、取り入れられる対策を検討する。
15	まとめ 多職種連携の課題と対策	多職種連携の課題・対策	レポート課題2に向けて、各自の多職種連携の課題・対策・今後の取り組みを検討する。

### ■スクーリング事前課題（学修時間目安：10時間程度）

- ・①各自の専門領域での多職種連携・地域連携に関する研究、②各自の専門領域での多職種連携・地域連携の実践、③各自の実践を改善するための対策を説明するスライドを作成してください。対面授業で発表を行いますので、配布用資料とスライドを持参してください。

### ■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	総論 多職種連携が求められる背景・様々なチーム・情報共有	リモート
2	協働する力① 場のデザイン・関係調整のスキル	オンデマンド
3	協働する力② 構造化のスキル・合意形成のスキル・ケーススタディ	オンデマンド
4	多職種連携の実際① 脳血管障害患者の急性期・回復期治療	オンデマンド
5	多職種連携の実際② 脳血管障害後遺症者の在宅療養	オンデマンド

	授業の内容	授業の方法
6	多職種連携研究① 連携・協働実践の振り返りに向けて	リモート
7	多職種連携研究② 発表：各自の専門領域の研究の動向	対面
8	多職種連携研究③ 発表：各自の専門領域の実践事例の紹介	対面
9	多職種連携研究④ 発表：各自の実践を改善するための対策	対面
10	まとめ 多職種連携の課題と対策	対面

### ■スクーリング事後課題（学修時間目安：10時間程度）

- ・他の発表からの学びを生かして、各自の専門領域での実践を改善するための対策を再考する。

### ■スクーリングの事前事後課題

課題 1 (事前課題)	①各自の専門領域での多職種連携に関わる研究、②各自の専門領域での実践、③各自の実践を改善するための対策について述べる。
課題 2 (事後課題)	①他の発表からの学び、②他の発表や質疑をもとに再考した各自の実践を改善するための対策、③多職種連携・地域連携に関して今後取り組みたいことについて述べる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

### ■アドバイス



授業で学んだコミュニケーション・ファシリテーションの基本や各専門領域での研究成果を参考として、実践を振り返り、対策を検討してください。③は、理想像ではなく、実現可能で具体的な行動として述べるようにしてください。②で事例を説明する場合は、個人が特定されない表現で記載してください。



①他の発表や質疑から気づいたことから、②課題1-③の加筆修正を行い、③多職種連携・地域連携に関して今後取り組みたいことを述べてください。理想像ではなく、実現可能で具体的な行動として述べるようにしてください。

### ■評価の方法・基準

- ・課題 1 (30%)、プレゼンテーション・質疑 (40%)、課題 2 (30%)
- ①問題意識を持って自らの実践を振り返り、実行可能性のある改善策を検討しているか。②分かりやすく他者に伝えられているか。③他職種の意見を尊重する態度が示されているかを評価の視点とします。

### ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

- \* 1) 中村誠司著 『対人援助職のためのファシリテーション入門 - チームの作り方・会議の進め方・合意形成のしかた』 中央法規、2017年
- 2) 北島政樹編 『医療福祉をつなぐ関連職種連携 - 講義と実習にもとづく学修のすべて』 南江堂、2021年
- 3) 伊藤健司 土谷幸己 竹端寛 『「困難事例」を解きほぐす - 多職種・多機関の連携に向けた全方位型アセスメント』 現代書館、2021年
- 4) 藤原佳典監 倉岡正高・石川貴美子編著 『保健福祉職のための「まち」の健康づくり入門 - 地域協働によるソーシャル・キャピタルの育て方・活用法』 ミネルヴァ書房、2021年
- 5) 奥宮暁子 金城利雄 石川ふみよ編 『ナーシンググラフィカ成人看護学⑤ リハビリテーション看護』 メディカ出版、2022年